

愛知県の大学生がもつ名古屋のイメージについて

初等教育教員養成課程 社会選修 柳生 朋美

本研究の目的は被験者が通っている大学の所在地や居住している場所によって、大学生が名古屋に抱くイメージの違いを明らかにすることである。大学生のもつ名古屋のイメージを調査するために、愛知県内の大学へ通う大学生1,500人にアンケート調査を行った。そして、大学生が持っている名古屋のイメージを大学の所在地別、被験者の居住地別に導きだし、イメージの形成要因やイメージの変化の要因を考察した。調査内容は被験者の所属大学と居住地、大学へ通う前と後の名古屋のイメージの変化、名古屋のイメージに当てはまる形容詞の調査、発展している都市の順位づけ、名古屋への自由なイメージなどである。

アンケート調査の結果、大学の所在地や被験者の居住地によって、イメージに差があることが分かった。特に、居住地別の差異が顕著であった。名古屋市に住んでいる人は名古屋を非都会的であると思い、名古屋から遠く離れて住んでいる学生ほど名古屋を都会的であるとイメージする傾向がある。そして、大学に通学後、名古屋へのイメージが変化することがわかった。

また、発展している都市の順位づけ調査ではイメージと知識について、高校での地理の履修の有無とともに調査した。この調査では関東や大阪へのあこがれがみられ、名古屋は第3の都市であるとイメージする大学生が多くみられた。また、高校時代に地理の履修をした大学生はある程度地理的な知識があり、イメージよりも裏付けされた知識で回答すると予想したが、履修していない大学生の回答とあまり差異はなかった。

そして、自由連想法からは名古屋への都市的あこがれがあるものの、東京、大阪と比べて中途半端な発展や文化であると評価していることが分かった。